

されている。私たちは当初よりこの予算は必要ないものと反対してきており、今回の当初予算の財源不足額は11億5670万円であり、今回も修正動議を提出する。

問 井上（正）議員

発議者池沢議員からは総合案内所の予算計上は必要がないとの修正動議の説明があった。

総合案内所は設置してこれまで約18か月余り実施してきているので、これまでの総合案内所の対応や成果の調査・検証をしたうえで7人の賛同議員と共に総合案内所が不要であるとの理由で修正動議が出されたものと理解している。

発議者に動議提出の詳細について説明を求めるが、7人の賛同議員共に、総合案内所が不必要と言われる判断材料や修正動議にかかる協議でどのような意見が賛同議員から出されたのか。

また、結論づけるための検証に必要な評価基準とした具体的な内容の説明を求

める。

答 池沢議員

総合案内所で対応した件数は、平成29年度の8か月で436人、平成30年度では、今年の3月までで6546人であった。

総合案内所が必要ないという大きな理由は、現在の庁舎の規模からして、来庁された方が迷わないように案内板があり、目的の窓口へ行けるようになっていく。

また、一般財源が伴うものなので、他に何か必要なものがないのか投資効果も含め検討した。

その中で総合案内所は必要がないと判断した。

問 井上（敏）議員

総合案内予算や財政調整的な基金の取り崩しも指摘したが、枝川の内水対策事業、学校・保育園の改築、防災・減災事業など、住民の安全・安心の継続事業であり先延ばしできない。費用対効果をいうなら、むささび温泉は現在まで、

開発費、補助金などを含め5億円以上投資しながらも、赤字経営である。これらも含め、前市政の財政運営から検証し直すべきだ。

答 池沢議員

財政調整的な基金残が平成31年度見込み約32億8000万円で、23.5億円の減となる。大規模地震や災害時などには基金が必要だ。

枝川の内水対策など必要不可欠な事業を除き、温泉の補助金、総合案内など徹底的な見直しや、各種事業の優先順位を図り投資的経費を削減し基金残を図れ。

問 久武議員

よく発議者は「声なき声に耳を傾けていますか」と執行部に対して質問しているが、総合案内利用者一人でも総合案内について聞いたことがあるか。

新庁舎は弱者・高齢者・身障者にやさしい施設になつていと思うが、玄関が非常に暗く寂しい。

2階に行ったら良いか、

3階なのか分からずお年寄りには迷うことがある。しかし総合案内ができ、来客があればすぐに立ち上がり「おはようございます」、町民の方からは「すぐ明るくなったね」と言われる。11億円余の財源不足は事実であるが、56億円の積み立てができた経緯については、合併後10年たつて交付税が減らされるために、積み立てたものと理解しているがどうか。

答 池沢議員

来庁者に聞いたことはある。

基金積み立てを今使うべきという話だったが、問題は財政運営だ。基金の減り方が多い。このままの状態ですら、同じように使えばなくなる。あとは全体の事業の見直しなどをするべきだ。投資的経費については根本的に見直しをしないといけない。その中で、本庁舎1階の総合案内所を見直すべきと提出した。

原案賛成討論

井上（正）議員

総合案内所の日誌によれば、町内の観光地への行き先、山岳観光のポイントなどの問い合わせや紙の博物館への案内を行うなどがあり、一方、庁舎内では、児童手当の窓口や介護保険に係る相談窓口の場所はどこか、といったように案内板だけでは対応しきれない内容がある。

また、案内所の利用者数については、先ほど池沢議員の説明通り、平成29年度で4363人、平成30年度では6546人の実績の記録がある。

このような数字や対応の内容をみる限りでは、総合案内所の予算が無駄な経費とは言えず、むしろ必要な総合案内所と考えられる。

また、障がい者用の駐車場予定地にインターホンの取り付けを